第28回第4回理事会議事録

日　時：1995年10月15日　14時00分～17時30分
場　所：大阪管区気象台大会議室
出席者：松野，関口，大西，小倉，斉藤，里村，白木，竹内，田中（博），永田，中村，新田，菊地，原田，森，加藤，廣田，木田，高橋，石島，以上20名
オブザーバー：山下（大阪教育大・関西支部支部長），島村（大阪管区気象台技術部長）以上2名
議　事：

1．第28期第11回常任理事会議事録の確認
一部修正のうえ承認．

2．各委員会からの報告及び審議

庶務…転載許可3件

・後援名義等使用依頼3件を理事会として承認
地球気候変化下における食料生産と環境改良に関する国際シンポジウム協賛（日本農業気象学会主催，96年7月，山口市）
第33回理工学における同位元素研究発表会共催（日本アイソトープ協会主催，日時・場所未定）運営委員に広瀬勝己会員（気象研究所）を選任．
第2回アジア数値流体力学会議協賛（日本数値流体学会等主催，96年12月，東京都）

・委託研究「海洋観測ブイネットワーク」の継続希望があった．受託研究として申請することを理事会として承認．

・学術情報センターの電子図書館システムへの協力について，近く覚書きを取り交わす予定．これに関連して，同センターのWWW資源提供サービスの資料を入手した．学会のインターネット・サービスを援助するもので，有益と思われる．里村理事，礒部理事を中心に検討することとする．

会計…9月の予算執行状況を説明．全体的には順調に推移．金利収入の低下，研究ノートの発行が予定より少ないなどのため，収入減が見込まれるので出費を抑制する．

天気…10月号の内容及び11，12，1月号の予定を報告．

研究ノート…「南極氷床と気候」を取りまとめ中．その他の進捗状況を報告．

国際学術交流…委員会を開催し，後期の補助金支給を決めた．2名から応募があり，全員認められた．

・アフリカ気象学会へ積極的に参加する方向で参加者を打診している．

その他…（高橋理事）学術会議気象研連の動きについて報告．2003年にIUGG総会を日本で開催する件につき，可能かどうかの調査に入った．開催が決まれば研連として協力する．地物研連や気象研連の活動を『天気』に定期的に掲載したい．気象研連では，気象学で未解決な問題，進行中や計画中のプロジェクトの把握，大学や気象庁等での人材育成問題などの気象学に関連した事項の現状を調査したいと思っているので，気象学会の春季・秋季大会のスペシャル・セッションとして一般会員を含めて一度議論したい．

（理事長）IUGGの件については，形成的には気象研連で議論されるが，予算措置を含めて実働部隊は学会となる．学会でも十分議論したいので，学会と研連の間の連絡を密にお願いしたい．

（山下関西支部長）関西支部第17回夏季大学について，第1日目は文部省補助金で楽しく分かりやすい無料の講演会，2日目は従来の形式で開催した．1日目は参加者が456名であった．毎年400人規模のものを開催するのはかなりの負担．各支部で回り持ちにするなど，一定の方針を示してほしい．

（菊地理事）文部省補助金を使い釧路で気象講演会を10月末に開催する．130人程度集まればよいと考えている．

3．会員の新規加入等について
個人11名の入会を承認．個人6名の退会を報告．

4．第10回国際大気電気学会の共催について
正式の共催依頼が日本大気電気学会会長と同大会委員会から気象学会理事長にきた．気象学会が共催に加わることを理事会として承認．資金拠出については，30万円にプラスできるかどうかを来年度予算案の固まる来年早々に最終決定することとする．

5．第32回宇宙空間科学総会について
標記について共同主催の依頼が宇宙空間研連から正式に寄せられた．理事会として共同主催に加わる

ことを承認し，予算については今後詰めていくこととする．

6．1997年度秋季大会の担当機関について

1997年度の秋季大会は北海道支部の担当とすることを決定．

7．春季・秋季大会のありかたについて

現在の第1種講演では十分な討論時間をとれないなどの問題を解決するための大会改革案を永田理事から提案．改革案の骨子は，春季大会は従来どおりの形式とするが，秋季大会は専門分野の「分科会」の集合という性格をもたせ，十分な発表・討論時間を確保すること，ポスター専用の会場を用意し，講演の多くはポスターで行うことなど．理事会としてこの改革案を討議する．出された意見の主なものは以下のとおり．

- 現在の形態は，あくまで過渡的なものと認識していた．講演数の増加に対応して，短い発表に慣れてもらうことが目的であった．中味のある議論は大会に合わせて開催する研究会でやる方向であったが，研究連絡会を充実させるという当初の目的の半分は成功していると思う．
- アメリカでは研究連絡会に相当するものが十いくつもあり，全体を網羅している．日本は5つで，網羅できていない．研連をきちんと組織していくために準備期間が必要．
- 分科会方式でやるにはそのためのストラクチュアが必要．いくつかの分野のジョイントのシンポジウムをひとつやり，あとは十いくつのセッションをそれぞれのコンビーナーが担当してやるのがいい．
- 気象庁の地区研究会との関連では，春と秋の関係は提案とは逆の方がよい．
- ある分野が毎年セッションを担当するというのは大変ではないか．2年に一度程度でよいのでは．
- 自分に関係の深いテーマがないと学会に参加する気が起きないので，各分野のセッションは毎回やってもらいたい．テーマはその分野のなかで毎回違ってもよい．
- ポスター・セッションは口頭発表と比較して数をこなす点ではかえって非能率．それでもポスターを推奨したいという立場が必要．

このような議論を受けて，大筋で大会改革案が了承された．今後，常任理事会や講演企画委員会で細部の問題点の洗い出しや，具体化に向けての手だてをとっていくこととする．

8．名誉会員の選任について

第11回常任理事会の決定を受けて，理事会として名誉会員推薦委員会の設置を承認．委員長を関口理事長代理とし，委員は松野太郎，菊地勝弘，田中正之，二宮洸三，小倉義光，武田喬男，廣田勇，浅井冨雄，高橋劭の各会員に委嘱することも了承された．第1回の推薦委員会を10月16日に開催することとする．

9．文部省研究成果公開促進費について

来年度の計画調書の受付が11月中旬に予定されている．今年度は関西支部と北海道支部に補助がついたが，来年度，気象学会としてどう対処するか決める必要がある．今回も夏季大学を対象とするのか，新規に気象講演会を企画して申請するのかも含め，文部省の担当と接触して必要な情報を集めて対処することとする．

10．地球科学流体環境分野関連学会協議会の設立について

地球システムの総合的把握が必要になっていることから，流体および地球環境に密接な関連をもつ関連学会が交流する正式の仕組みを設けたいとの総合計画担当の木田理事からの提起を理事会として討議．地球惑星関連学会連絡協議会との位置付けの違いについて若干の議論があったが，協議会設立を関連学会に呼びかけるための準備をする小委員会を設置することを承認し，次回の常任理事会で具体化することとする．

11．第29期役員選挙について

選挙管理委員会を設置することとし，時岡達志会員（気象庁長期予報課）に委員長を依頼するため，必要な措置を取ることを承認．